

京城日報

九月二十一日夕刊 (朝夕併せて八頁)

政局展開彙報

△園侯經過聽取

寺内首相訪問
十九日午後一時、園侯より御見舞。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。

△侍從長園侯訪問

十九日午後二時、侍從長園侯より御見舞。園侯は、侍從長の御見舞に對し、御返答。園侯は、侍從長の御見舞に對し、御返答。園侯は、侍從長の御見舞に對し、御返答。

△園侯參内

十九日午後三時、園侯より御見舞。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。

△園侯出廬奈何

原内閣出現説
園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。

△園侯出廬奈何

原内閣出現説
園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。

△園侯出廬奈何

原内閣出現説
園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。園侯は、寺内首相の御見舞に對し、御返答。

大命降下せし西園寺侯爵

△首相辭表捧呈

大命西園寺侯に降る
寺内首相は廿一日午前九時半、參内辭表捧呈。寺内首相は、大命に對し、御返答。寺内首相は、大命に對し、御返答。寺内首相は、大命に對し、御返答。

△市占領公報

烏菴里方面戰報
二十日、市占領公報。烏菴里方面、我軍の進軍。烏菴里方面、我軍の進軍。烏菴里方面、我軍の進軍。

△俘虜武裝解除

西伯政府市移轉
二十日、俘虜武裝解除。西伯政府市移轉。西伯政府市移轉。西伯政府市移轉。西伯政府市移轉。

△西伯政府市移轉

西伯政府市移轉
二十日、西伯政府市移轉。西伯政府市移轉。西伯政府市移轉。西伯政府市移轉。西伯政府市移轉。

△伊講和馬耳東風

伊講和馬耳東風
二十日、伊講和馬耳東風。伊講和馬耳東風。伊講和馬耳東風。伊講和馬耳東風。伊講和馬耳東風。

△白耳義講和拒絕

白耳義講和拒絕
二十日、白耳義講和拒絕。白耳義講和拒絕。白耳義講和拒絕。白耳義講和拒絕。白耳義講和拒絕。

△英軍と線突破

英軍と線突破
二十日、英軍と線突破。英軍と線突破。英軍と線突破。英軍と線突破。英軍と線突破。

朝鮮人の同化

朝鮮人の同化
朝鮮人の同化。朝鮮人の同化。朝鮮人の同化。朝鮮人の同化。朝鮮人の同化。

帝國對日通商

帝國對日通商
帝國對日通商。帝國對日通商。帝國對日通商。帝國對日通商。帝國對日通商。

議會委員會

議會委員會
議會委員會。議會委員會。議會委員會。議會委員會。議會委員會。

統計學者逝去

統計學者逝去
統計學者逝去。統計學者逝去。統計學者逝去。統計學者逝去。統計學者逝去。

阿片法制定

阿片法制定
阿片法制定。阿片法制定。阿片法制定。阿片法制定。阿片法制定。

鮮銀新株募集

鮮銀新株募集
鮮銀新株募集。鮮銀新株募集。鮮銀新株募集。鮮銀新株募集。鮮銀新株募集。

設立委員會

設立委員會
設立委員會。設立委員會。設立委員會。設立委員會。設立委員會。

閣員辭表捧呈

閣員辭表捧呈
閣員辭表捧呈。閣員辭表捧呈。閣員辭表捧呈。閣員辭表捧呈。閣員辭表捧呈。

茶前酒後

茶前酒後
茶前酒後。茶前酒後。茶前酒後。茶前酒後。茶前酒後。

期米の大變兆

期米の大變兆
期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。

石灰一手販賣

石灰一手販賣
石灰一手販賣。石灰一手販賣。石灰一手販賣。石灰一手販賣。石灰一手販賣。

工事中轉居仕候

工事中轉居仕候
工事中轉居仕候。工事中轉居仕候。工事中轉居仕候。工事中轉居仕候。工事中轉居仕候。

米賣同氣會

米賣同氣會
米賣同氣會。米賣同氣會。米賣同氣會。米賣同氣會。米賣同氣會。

期米の大變兆

期米の大變兆
期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。

閣員辭表捧呈

閣員辭表捧呈。閣員辭表捧呈。閣員辭表捧呈。閣員辭表捧呈。閣員辭表捧呈。

期米の大變兆

期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。

石灰一手販賣

石灰一手販賣。石灰一手販賣。石灰一手販賣。石灰一手販賣。石灰一手販賣。

期米の大變兆

期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。期米の大變兆。

石灰一手販賣

石灰一手販賣。石灰一手販賣。石灰一手販賣。石灰一手販賣。石灰一手販賣。

工事中轉居仕候

工事中轉居仕候。工事中轉居仕候。工事中轉居仕候。工事中轉居仕候。工事中轉居仕候。

東京期米特雲

一節二十九圓又一節

二十一日商場
一節 二十九圓二十七錢

宇治川水
阪電鐵
西、西

東洋製糖	同上新株
西、〇〇	西、〇〇
西、〇〇	西、〇〇
西、〇〇	西、〇〇

盛島米穀	東京株式	大阪株式
三〇〇	二〇〇	三〇〇
一五		

二十日前接
九月限
四〇二一〇

二月限	三三五、五〇
-----	--------

正 二十九圓十六錢
二十一日開場
四 二十九圓丁度

廿一日前場 仲秋過ぎ各

安值	高值	齊付
1	1	3
3	3	3
3	3	3

●正米小高

今朝 各自手揃て

れるが實人無又之により
轉附き氣配も仁川の定期
の引立ち等と待一一

し、附近粍米は追々減じ
出廻り難事を唱へられ地
主各人の在り粍米或は

か如く其中には新米の出次第に増加すべきより最

米高は正米との額寄の外
懸念を懐とせるものにて
米部は於て甚しき窮乏な

害減收高知縣
十萬石の減收

の内地期米界は **被害**

同事に正来の身

せられんとする噂がある。り高値を掴まざる要心、

1883

十二日五厘の値
下けを行ふ事
に定まれり

●襦袢底強しは種
多氣配下押せられ
る也

たれども中には過て叩き出されたるものもある等故に一定せざるを以て襦袢底強しと雖も襦袢底弱しといふ所あり

相違^{あひだ}も亦甚^{おほ}く見^みえ
 強^{つよ}氣^き筋^{すぢ}

[illegible]

富の道しるべ 價十五錢
 京坂太平通 振發號三〇〇 京日代理部

[illegible]

電話 五八二番	電話 五九四番	電話 六〇六番	電話 五七四番	電話 五五五番	電話 五五三番
南大門支店	本町支店	平澤支店	群利支店	利川支店	東大門支店

支店八豊田明支店



期に入らば、實に海外販路より輸入せざるのみならず、廉價にして嗜好なる物品が、次第に國內にまで侵入し來り、日下小規模に狹く、物價昂騰の趨勢はここに頓挫を來し、翌年も亦次第に低下し、全

「ヤホマツは右に劍を握り、左手に高く一ランを掲げて、威嚇の狀を假し、右手に鐵盤を擲きたるまゝ、右に這進み居るのをさかからず。八月末の計にれば、正統の敵は將に十四億に達せり。此の戦潮は恐らくも時中に限りて繼續するなりとも朝鮮半島の間に入らば、恐るべき被害の懸け、忽ち是れ吾人の面前に現は、我が抱擁の貿易品を取らん、大手を展げて来るべきは必然にして、此の如く若しも不幸を取るあらば我が對外貿易は瞬刻に撲滅せらるるのみならず、輸入の然るゑ、他地位を通じ、元來の木の木、阿膠、輸入國、僑民に波及せしむるのみ。

又朝鮮邦は今日より於いてこそ軍に對して、經濟的進歩を見るに足らなけれ、元來多方面に活潑の發展計、注目を要するもの外無かりて、今日こそ戰役の爆發を期し居る所なり。

長したる防に投じ、海へ出して防ぐべからざる貿易の逆潮を來すべきこと、推察するに難からざることを、如何せん、折角蓄積したる正統の如きも、何時の間にか散失盡消するところなるべく、今日之が豫防の計、臨立せずんば、隣國の侮いを取るこゝ火を惹くる禍根かなり。

過般日本銀行が貸出率の引上げを爲したるにつき、一般觀測者の間には、多少過度に緊縮せるの嫌を奏すべしとの説もありたるが、其日本銀行の利上は、金融界の實況に引附られたるものとして、自然的に通貨收縮を策したるものにあらざるを以て、一般觀察界にはこれが影響を及ぼすこと甚だ少く、昨迄進き將來にも、寧ろ果敢と云ふ關係に對し、利鞘を占めるを許さざるまでのことなるべければ、既に前貨の縮小を圖らんとするには、第二次乃至第三次利上を必要とするべく、又金融界の關係を築きの如きも、確たる結果を得るべからざるを見て、此の如く

戰前の狀態にて、陸軍手からすると、現在より二斷乃至三斷方至るの低下を見ることなれば、辛くも、市場の均衡を謀つ得し。

寺内閣嗣後、の政策として國民精神、有言の組織は、五人に滿洲の事所なり。而も其の活動の後援者、內閣閣員直接を待たざらずとも、密着つて物價調節に對する事を、本政策を斷行するに在るときは、言ひ俟たず。而も物價の調節は、通貨の縮小を感ずるは、總體經濟の一致する所に在り、果によりて見ても、現在の如く大底以上の通貨擴張維持しながら、物價低壓を實行せしがきは、新を抱ひ金を硬直に與するを想はざるを得。勿論に兪貨の收縮は一事業の合開閉にして、之がために、貨幣の變換は遠外に善悪に大打撃を加ふることは、角を矯めて牛馬を殺すと同様なれば、この加減は最も最低にせざるべからざる。更に角と云ふ此實質の逆潮の豫防策として、是れをも實行するの要ありと云ふ。知らず後繼內閣の旗幟立てし

時局と國民思想 (十二)

[illegible]

に急がなくつたつていぢや無い
か、別に今送つてやる所もありや
ないの。

次回小説豫告

後徳川幕府の殿舎書は法律・毛利
 田中・中津藩・譜代
 西の方の諸大名の家には未だ
 残つて居る。其儘にして取附
 るのであらう。海には一隻の海軍
 も無くなつた。さて斯の如く暇
 對しては、蔑め惡い事の無い體
 云ふ方針で用意して居た。
 が約束の三箇半叩眼も過ぎな
 けり。中津藩の交番は何れ要領
 得ない。茲に於て亦其は然ら
 ぜぬ。此方に於ては爲す所
 非を爲し盡す。道を盡して毫
 半嫌はれること。苦である
 期に對しては彼が非常苦んで
 に倣ひて此方を取給へ一時に
 を過つたのだらう。腰の松紐位
 が當然である。夫れにも拘ら
 斯の爲を見て如何にも残念
 あるのみならず、一國の體面
 する。最早此に交番の餘地は無
 後徳川幕府をトクノ叩き乍ら宣
 郎は云ふた。
 「それこそうだけれう……」
 未練しく云つたが、其語はそ
 れで終つた。
 吏の田圃では露花を深べた水除
 で、露の掛い紐がコロコロ鳴き何
 けた。
 其後宣太郎等は早く床に就い
 其夜太郎は三四日前から醫師に
 かつてゐた。寢るに先だつて餅
 腹茶を飲んだ。
 それでもおのふの方が早く眠つ
 朝は暗いうちに宣太郎は眼を覺
 て、輕便して夜明けを待つた。戸
 の隙から樹の光りが流れ込むの
 待つた。一人起きて其の井戸で水
 溶いた。そして其等を掃除し
 した。おのふは眠さうに眼
 分つてゐる。其の面を説き
 りつゝ、其の面を説き
 有様も、急ぎ先を以て大體同
 告ぐべけれ。其の面を説き
 の門下にて新進作家を以て聞ね
 する。佐々木峰雪氏が執
 筆せる
 家庭邂逅
 小説邂逅
 を描する。同小説は可憐なる
 一兒童を中心としたものにして
 之を讀んで同感する者は
 なるべく筆者の待て家庭内情
 さ描だせし其内容の普通小
 説と異なるは、唯、小小説の
 間かんする範圍にして筆者
 の大膽なる新しき表現の如く
 るは進出され、其の如く來るべ
 く提出し共に御覽願ふこと
 を乞ふ

人々は驚いて集まつた。
おのづかは言われてゐた、人々の
患の言葉も耳に入らずに
「其忍びておくれ、其忍びておくれ」

(八十七)

「一度節太夫の官職を取つて置きませうね。」

例に倣つて仕仕した夕飯後におたのぶは節太夫に御指物をしなす、宜太郎に相談した。

「取つてやるのはいいが、そんな後頭巾をどく／＼叩く年ら、宜太郎は答へた。

「それでもうだけけし……」

未練らしく云つたが、其語はそゝで、氣の早き年がコロ／＼叩き仰めた。

其夜は宜太郎等は早く床に就いて、宜太郎は「四日前から節太夫に先だつて能く職業を飲んだ。」

それでもものぶの方が早く眠つた。

朝は暗いうちに宜太郎は眼覺め、轉輾して夜明けを待った。戸の隙から朝の光りが漏れ込むのを待て待てと入起さず其の非戸で水を浴びた。そして其處等を掃除して、まだおたのぶが起さぬのを密に覗きた。おたのぶは眠さうに眼

をこ。

「水の日曜に思つた儀式は行はれた。まだ兄の祖父交の例へ通り、淋しい家に就いて人々をつたつた。」

次回小説豫告

久しぶりの東京で迎へられ、つづ／＼無事一兩日、説教行儀も、急ぎ／＼以て一面、報告を、告ぐべけれど、宜太郎は節太夫の門下にて親戚等々を以て聞か

な。佐々木峰雪氏が執筆する。

家庭小説邂逅

を執持すべし。同小説に可憐なる一兒童を中心としものにして之を讀んで同病を患ふ者はなかるべく、先づ、家庭小説と雖、筆致は鋭く、其内容の普通小説と異なるのは、恐らく木下説書問かんする範囲にして、筆者の大膽なる新し試験の理たる處は連日紙上に現れ来るべく擧出と共に御愛読のまんごうを乞ふ。

[illegible]

電話變更廣告
龍山四五六番兒玉琢

模範的 少年雑誌

歐洲戰爭 少年雜誌

最近白濁 少年雜誌

牛島 少年雜誌

山の本 少年雜誌

十二勇士 少年雜誌

大懸賞 少年雜誌

東京 少年雜誌

柏木 少年雜誌

創刊號內容

祝詞 少年雜誌

廣田中佐 少年雜誌

ツツイ 少年雜誌

少年 少年雜誌

忠義の半蔓 少年雜誌

久留島武彦 少年雜誌

山の本 少年雜誌

十二勇士 少年雜誌

大懸賞 少年雜誌

東京 少年雜誌

柏木 少年雜誌

東京海上火災保險株式會社
代理店

三井物産株式會社
仁川出張所



優美にして冠り心地極めて良し
 各地有名なる帽子洋品店にて
商標 御注意御愛求を希ふ
 發賣元 兼吉安商店

時勢の進展に従ひ今同歌衆の例に倣ひ既成服部を開設仕り候へ
に新らしき試みこし各庄に提供する既成洋服は地質裁縫何れ
も十二分の味味し注意を以て別號御注文に比し何等遜色なく
一今ガ今 立所に御旗に應じ可申候
一地 質 は今年流行品中の粹を採み
一スタイル は今年の最新流行形にして
一サイズ は33 34 35 36 37 38の何れともFTを
付して土種多種に涉り如何なる御體
格にも不思議に適合可致
一裁 縫 は弊店獨特の技術に夏期職工の閑散を利
用して丁軍親切に仕上り有之而も
一價 格 一著に付き十圓以上二千圓以下の低價
を以て提供可仕
實に服裝界の一大革新と申すべき此の新しき提供に對し疑義
を尙はるゝ諸賢は舊例の注文取り寸法取り假縫等の煩を避けら
れ今が今御時に御苦心地も服裝を御試みあらん事を切望仕候

京城南大門通り

丁子屋洋服店

店內陳列 各種多數陳列致居るに隨同臨時御高覧を
仰ぎ度く

地方 御注文に依り寸法納金等見えて御送
り可申致不意の弊は何時にても取替

Price 有皮三拼=耕サージ・スコッチ・メルトン ~~¥~~29.50...ヨリ...39.00... 其他各名
 シーバー=ラウダ・メルトン・スコッチ ~~¥~~28.00...ヨリ...40.00... 其他各名
 トンビー=霜降メルトン・ラウダ・スコッチ ~~¥~~27.00...ヨリ...42.00... 其他各名
 詰 袷 服=耕メルトン・サージ ~~¥~~19.00...ヨリ...23.00... 其他各名

大崎船主
 田慶應義塾長は二十日午前
 大崎船主
 田慶應義塾長は二十日午前

駐支那領事館の手許に無事愛護
 受けたるが來電ありたりと
 許可の指令あるべしとの事なり
 大正十一年四月廿四日

〇東拓の休檣豐收

に貯蔵倉庫の増設をなし、
五萬顆以上の貯蔵を實行する

時説教 宗教とは何ぞや 同人 集會前
に聖書 寄讀會 練 ある由
メソヂスト教會 旭町二丁目 午
上ノリ 中ノリ 下ノリ 午後七時
午後八時
妙心寺別院 長崎町 廿一日午後九

龍山驛で愛國婦人會員に

一圓紙幣力
六十錢せん

にしか通用
しない吉林

北征軍と共に吉林まで同行し、
 翌を以て二十一日龍山驛に歸來

● 聖草の如き たはこ

明日一箇三十錢もし然も商

りたる程である、また日本の紙幣は支那人間には銀相協定

多額の資金

三密の資金

図けようとして居るものがある。角戦場に近し多数の軍隊が

● 居るゝこゝでボロイ儲けを
● 来に轉がつて居る長春は四日昔

甚し寒氣か

戰則第一戰する者廿三、四南口
に對し下名所の戰死を遂げたる
牛中尉以下二名の戰死病死
の死者は二十一日附〇〇共に
可達海兵隊司令部要請官、谷田
重吉、大塚に遺書を書き取り
て秘蔵後廢止に出迎へ陣營を襲取
りて秘蔵廢止の上進軍途中に

○
我子を救はん

○
十九日朝京城著。身軀は太臍
腹膨脹し收斂され難く房下
射したる風となつて別列に
引いたる風となつて別列に
物を餘なく吐出し置れり。

[illegible]

又復來る

身柄は鐘路の
拘留監へ收容
され居るを發見せし春校中の同
吉崎晴彦、栗林三郎、吉崎晴彦に
矢張り身を水中に墮らせ、船中
艇を聞き付けて馳り来りし時發
多分崎田(田)等、密應協力を
したる事、三島、廣瀬、佐々木

居たる御川骨事死刑に因長七太郎君は、是は過酷處より笠山へ送され居たるが爲に十八日嚴重な三穴傷事也

●故杉山氏に十萬圓
大崎市で頓死して市價で杉山女が遺した財力が十萬圓に達したと、母は泣きながら、

吐雲宗匠
△………御宗門に附けた
和田垣博士を訪ふ
内外の時局は、一掃の勢に、
「文明」の聲も、遠く響いてゐる。大空が
すういやニ、日本もこれから

喫ん だが好いこはほ
いのだ。」云つて二十何貫ら
りさうな大きな籠を椅子の上で
がす。「イヤ、ニ、日本もこれか

三氏は此の地位に於て其の政論の露布を
ない然し今日擧げたる何の思ひを宣
てゐるであらう記者は一日が石川日
向道卿の邸に脚を訪ふた

大正は我々の安樂椅子に腰を下し
博士のパイプで舌の尖り、煙を吐
き出すやうな人々を前にして

五年も経つたり、本當に所謂
想的な

◆政治
も行はれるやうに
だらうよさうなつたら、別に
人物と要さない、あれば越した事

むのを止した、寶も一時は
 ◇止め てつけたが、さうも
 執腕したり物を勢へたりするのには
 黄が無くちや一寸具合が悪いもん
 だらかね。それに黄を咬むと歯が
 折れる。それで黄を咬むと歯が折る。
 ◇時と いふものを要する
 ナニかう云ふは何んだか外國の
 治でも進歩してゐるやうに聞ける
 知らんが、歐米の新進國だつて

冬に近づく程に生活の危機迫る

「貧乏難者難からずれば貧乏を見
做す程出来る此、餘り驕がれな
い故」トリヤス其後、陣中には
の購買意欲が誇りにて常業者中は
米、如斯の仰く世間から批議さ
る。生活難はいよいよ

困窮して沸騰し人氣も昨より
こぼした。今更々結氷を融か
しに接した昨の購買と、前日の
上に購買と、ある程で

然し、
 服店に就いて聞くに手帳物は
 醫の供給地と原料を政府の專賣
 し制限が附して分配して居るか
 如何に待つて一定以上の取引
 と云ふ事と裏合はぬか
 標記及び取付工賃は素敵に歸す
 △本年はストーブの
 つてる理ではない
 れないのを寄貨してさしく追
 に伴つてものがあるままだと

位になつて
る營業者は來
は現今の三割
なる見込み
あるとか、某
服店員曰く木

物は相違高の
 藥を受けて春
 來一刻乃至一
 五分鐘になつ
 る利便類は
 仙は半分の當



品管がじつこ
らて居るから
張り
騒ぐ
時や随分騒いでる
◇我輩
の自作だ。まだな

「好い、呵向くは云へない。見るまで、日本の強味々大さき重さは驚然として儲けに存るのだ。今回の盛銷だつて治まらねば来れば治まる。」


◆船を飲んだり吐いたり

此の
 頭は然つした硬い政
 國へ紹介するやうに努めてゐる
 可く日本に思想を外
 國へ紹介するやうに努めてゐる
 可く日本に思想を外

哀話 (一)

生きて行かない、そしてそれ
自分自身にはさう悲しい事こ
つてゐないやうな哀れな子供
を、あつて收容する濟生院の養育部
に斯うした

居るものが既に十四名もある
その佐の方にも居る
彼等は世間の
知らずあはして戯れて居る
其口下の
生活難が如何にその


救済會 くきうかい
 日本赤十字會
 東京市本町二丁目
 日本赤十字會
 東京市本町二丁目

孤兒院に 府から一人

日十九錢かの^二當^一を出して入れ
居るやうである云々、現在の百
十八名中鮮人が百四名でその内
農務場に廿四名、前記の被雇者
十四名であるが其外内地人が六
名、それでは幼兄は有らぬ方

◆**鮮人氣質** を窺ふ事が
 来る、内地人の方は原因を明か
 する事が出来るけれど、鮮人の
 はなかなかくさうでない、中には
 滑稽なのを時々出て来るもの

容易に料理が覺えられて
禮法と裁縫も覺えられる
主人の笑顔に主婦の手が加減一つ

に最も重要な料理に通はぬ名士の満座。毎餐振舞ひある日本の食事は、安宿に人必の廉を許してゐるが、法に直し、又是れを達しれば家庭の貴典、婦人一生の相談處人の道に缺く處なき様に寄相するべき。

同台より家庭料理講習會々年分金四圓貳拾給ふなり。
 録を寫し、斯等の各専門を
 をして料理と禮儀作法と
 録を寫し、これを毎
 に進しつゝあれば、同會
 金五圓の便法あり。この便法は
 進めを顛倒と思ふ方に對しては、
 同會すれば結構なるも、若し會費
 送金の便法

日本料理

其の地の
郵便局の手
を以て集金
し、大旗は
送り、同時に二ヶ月分の會費（集
金の手材料共八拾五圓）
此の三つの道に通過する者
有るに於て、左に同國遊覽の内容を



紹介せん。

日本料理

支那料理科 には支那料理科を以て置き、
和洋菓子科 には日本及
西洋菓子科を以て置き、
大特典有り 此際の大特典に限り、入学金を免除し、
住居費を減し、月費六ヶ月分の
食費、書籍には全費前納者
壹ヶ月分の食費前納者
に減額が為す。

和洋裁縫科

はに袖より急所を腕に手
たのて、衣類と、
一月間無月謝聴講生

本會出版の圖
タルを見せる外、
我々永久に三製別にて贈す
の特長及本會品の製造後にて
一ヶ月間無月謝聴講生

玄米粉入パン種 一袋 送料共金拾七銭
 乾パン種 一袋 送料共金拾七銭
 爆パン種 一袋 送料共金拾七銭
 玄米粉入パン種 一袋 送料共金拾七銭
 乾パン種 一袋 送料共金拾七銭
 爆パン種 一袋 送料共金拾七銭


自動車 運手養成

備完全短期運轉術修了入會日は毎月一日三十五日
 科書無代交付會則送呈覽送れ就職紹介す
 官場芝浦海岸埋立地（電話局第七番）
 東京芝浦自動車講習會

公債株式現物富買信託業
 京城府橋本町丁目三十五番地
新田耕市商店
 電話 長一五七〇番
 電掛 二支は二二二

大好評大喝采 **大正館**
 世界的 秘密の王國 六卷
 天活劇 伯爵を刺殺して軍門の血祭りに掲げ
 及逆人シモンドに迫る場面の如きは觀
 客を熱狂せしむ
 目玉秘之助 車全團
 竹内加賀之助 全三卷
 雲 全四卷

京城春川自合乘車



運轉手
 運轉手
 運轉手

會商車自川春 見丁三町金黃城京
 角通町永川春 第七二番地

百畫骨董
 每月一回非賣品展覽會並ニ素人持寄即
 會京開可
 大正五年六月
 優 書 畫 良 買受（即決即金）
 朝鮮美術同好會

